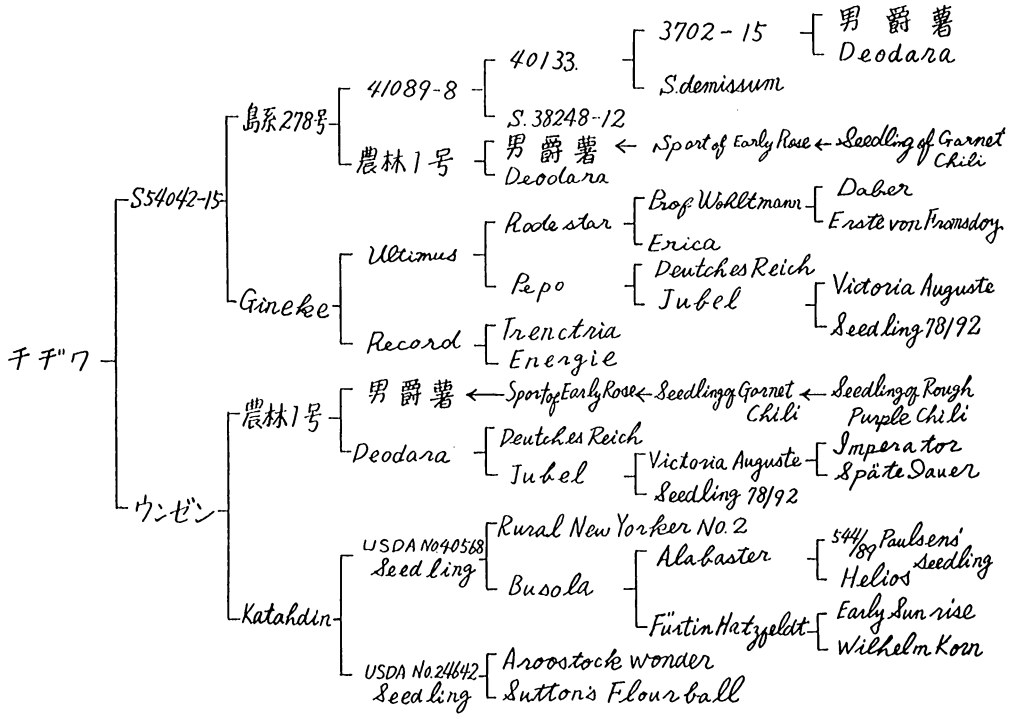




第 2 表 「チヂワ」の血縁関係



第 3 表 「チヂワ」の両親の1式当り上薯重 (1956~1961年, 愛野, 品保)

年次	春		作			秋		作		
	S54042	同左農1に對 —15する百分比	ウンガン	同左農1に對 する百分比	農林1号	S54042	同左農1に對 —15する百分比	ウンガン	同左農1に對 する百分比	農林1号
1956年	127	29	552	124	445	404	128	354	112	316
1957年	208	56	464	125	371	439	96	484	106	457
1958年	178	56	387	122	317	385	115	358	107	335
1959年	186	43	468	107	437	391	101	389	100	389
1960年	277	59	620	133	466	403	116	314	90	349
1961年	162	47	483	140	345	320	98	320	98	327
平均	190	48	496	125	397	390	109	370	102	362

第 4 表 馬鈴薯「チヂワ」の春秋作における上薯および澱粉収量

品種名	春		作			秋		作			育成場所及年次
	a 当り 上薯重	同左標比	澱粉価	a 当り 澱粉収量	同左標比	a 当り 上薯重	同左標比	澱粉価	a 当り 澱粉収量	同左標比	
チヂワ	kg 240.8	% 90	14.8	kg 33.2	% 88	269.5	111	15.2	kg 38.3	% 111	愛野 昭37年
タチバナ	246.9	92	11.7	26.4	70	281.5	116	13.1	34.1	99	" " 30年
ウンゼン	305.1	114	13.4	37.8	100	248.9	103	13.1	30.1	87	" " 30年
シマバラ	259.6	97	13.1	31.4	83	223.4	92	13.4	27.7	80	" " 35年
(標)農林1号	267.6	100	15.2	38.0	100	242.8	100	15.2	34.5	100	島松 " 18年
男爵いも	175.1	65	13.9	22.6	59	144.2	59	13.6	18.2	53	北米より 39年

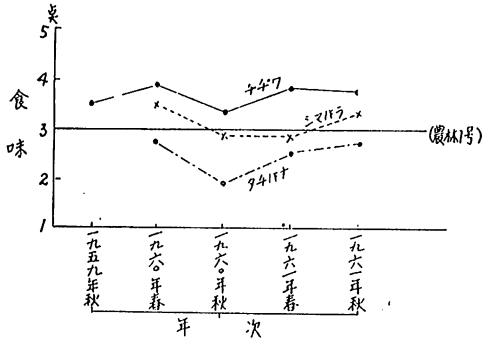
註：愛野馬鈴薯センター試験成績 1952~61年, 但しチヂワおよびシマバラは1958~61年

食味は調理の種類によつて多少の差はあるが、蒸し薯、丸焼、煮物などに適して、農林1号やシマバラより優れている。(第1図参照)。

疫病の抵抗性因子はないが、同場抵抗性は農林1号

よりやや強い。Xウイルス病に対しては比較的強いようである。軟腐病および猿癩病には農林1号より強く、ネグサレセンチュウには中位である。

第1図 馬鈴薯「チヂウ」の食味調査成績  
(1959～1961年, 愛野)



#### 4. 適地ならびに栽培上の注意

「チヂウ」は暖地における秋作むき多収性品種で、良質で、食味がよい食用種として期待される。また、その肉色は黄色であるので、東南アジア方面への輸出むき品種としても利用されるものと考えられる。

シマバラの如く苦土欠乏症が出やすいとか、二次生長に由来する亀裂薯を生ずることなどの欠点は殆んど見られなくて、土性、土質に対する適応性はひろいようである。

一般に、その茎長はやや高すぎて風害を受けやすいきらいがあるので、強風のあたらない環境を選び、栽植密度はあまり密にならないのがよいようである。